

- ・ 自分たちの地域が好きになり、外への情報発信する力になり、長寿者や子ども達の関わりも大事にしていくなど、地域力が増してきた。
- ・ 世界遺産を目前にした今こそ、真剣に自分たちのまちの姿をきちんと打ち立てておかないと、他県では地域の良さが失われ単なる観光地化した例もある。危惧される点だ。
- ・ どういう島の姿にしたいかのゴールを決め、戦略（作戦）を立てて、みんなで進めていくことが大事である。そのためには、動力（住民パワー）が必要である。そのためのスキームは、モデル地区をつくりこのプロジェクトで実際行っているのだから、活用して欲しい。
- ・ 今後は「長寿・子宝」で地域が主体となって活動していくことで、地域力をつけて、外への発信力へとつながっていくと考えている。
- ・ 素直で純粋な子どもが育つ奄美の環境は、誇りに思うべきであるし、日本全国に情報発信すべきである。（フェスタでの最優秀作文を例に）

#### 【観光・産業振興】

- ・ 「あまみシマ博覧会」の認知度が上がって、島外からの参加者も増えている。この根底にあるのは、「長寿・子宝」であり、奄美の生活と文化である。

#### 【行政担当からの意見】

- ・ 昨年の「長寿・子宝フェスタ」の住民のワークショップで「子宝の島として、合計特殊出生率などの数字はあるが、質はどうか」といった意見があった。この「質を上げる」のが行政の仕事なのではと感じた。
- ・ 外からの評価を地元の人たちの誇りにつなげるような取組をしていかないといけない。
- ・ 島内外で良さを図るべき数値（指標）、価値観を提示していくことも行政の仕事であると感じている。

#### 【事業成果有効活用方策検討会議(H26.2.6)での主な意見】

- ・ このプロジェクトで各市町村がレシピ集を作成しているが、奄美群島全体で活用できるよう情報提供して欲しい。
- ・ 首長さんが中心となって総合政策として体制づくりに取り組んでいくことが非常に大事である。
- ・ 早世問題については、既に取り組んでいる市町村もあるが、首長さんトップで取組の促進を図っていただきたい。
- ・ 事業成果有効活用として、「エビデンスの部分をPRに是非使っていただきたい」ということと、「人材育成、体制づくりのノウハウを活用していただきたい」という2点についてお願いしたい。
- ・ プロジェクトでは、タラソセラピー、島唄・島踊りはどういうプログラムでやったらどんな効果があるか、きちんと検証している。
- ・ 中心になって動いていただく住民を育成する目的で、どういうふうなやり方で、どういう人材をつくるか、きちんとモデル町を設定し取り組んだ。
- ・ 「長寿」と「子宝」の単独のネーミングで発信するよりも、「21世紀少子高齢社会モデル」としての社会的な言葉で発信する方が非常に説得力がある。
- ・ 豊かな精神、文化、人のつながりなど都会にないものが島にはある。これを中心に地域づくりをやるのがこれからの行政経営の一つのトレンドである。
- ・ 知的財産を行政が登録していこうという時代である。薬草、微生物などこれから健康づくりに大変大事である。どんどん取り入れて島ならではの取組をしていただきたい。

#### 【各首長等の意見】

- ・ 10年間の構築したものを今後は、いかに実践していくか。一つ一つこれを活用した事業を進めていきたい。
- ・ 「長寿・子宝」の政策は、1課でやるのではなく各課連携をとりながら取り組んでいかないといけないと感じている。
- ・ 行政の様々な分野に「長寿・子宝」を意識して、立ち位置をはっきりさせながら取り組んでいくことが大事である。
- ・ 最終段階として、ヘルシーリゾートアイランド構想の目標に向かって、群島各市町村と連携しながら取り組んでいきたい。

～「長寿・子宝・癒しの島 あまみ」の構築を目指して～

# 提 言 書

## 《あまみ長寿・子宝プロジェクト推進協議会》

奄美群島は、「周りを海に囲まれた豊かな自然環境」や「食材，独自の伝統文化」，「結と呼ばれる相互扶助の結びつき」など，素晴らしい地域資源がある「長寿・子宝の島」である。

奄美群島の伝統的な生活文化や，地域の暮らしぶりのなかに，これからの我が国の少子高齢社会を克服していくヒントがあり，奄美群島は，まさに「21世紀少子高齢社会対応モデル」になり得るといえる。

今後，さらに，一人一人が奄美群島の持つ「長寿・子宝」の優位性を自覚し，継承し続けるとともに，「長寿・子宝・癒しの島あまみ」を構築し，奄美群島の自立的発展と，豊かな住民生活を実現するよう，地域自らがより一層取り組みを進めていく必要がある。

### 1 「長寿・子宝」の優位性の認識と継承

奄美群島には，「長寿・子宝」の要因となる，世界に誇れる多様な自然環境，豊かな長寿食材，伝統文化，結いの精神など，他にはない独自の素晴らしい地域資源がある。まずは住民全体が，奄美群島の「長寿・子宝」の優位性をしっかりと認識することが大切である。

また，これからも奄美群島が「長寿・子宝・癒しの島」であり続けるために，住民自らが日々の生活習慣を見つめ直し，奄美群島の持つ豊かな地域資源を活かして，若年層の課題である早世を克服していくことが必要である。

### 2 まちづくりの推進（横断的な連携体制）

「長寿・子宝・癒しのまちづくり」には，行政，自治会やNPOなどの団体，商店街，農業，観光業など，まち全体が関わって進める必要がある。

特に，地域住民が中心となって主体的に動いていくことが最も大切であり，そのためには，行政のコーディネートとサポートが重要であり，保健福祉のみならず，商工観光，農林水産など関係部門の横断的な連携体制が不可欠である。

また，奄美群島広域事務組合などによる，奄美群島全体をトータルで振興する取組も重要である。

さらに，外部の企業や人材を活用することも必要で，新しい感性をいかに取り入れるかも大切な視点である。

### **3 産業・観光の振興（「長寿・子宝」を発展させる視点と個性の発揮）**

産業や観光を振興していくうえで大切なのは、『奄美群島の「長寿・子宝」を継承し、さらに発展させるために振興を図る必要がある』という視点と、産業振興・観光振興を同じ観点で一体的にすすめることである。

また、奄美群島の持つどこにもない素晴らしさ、例えば世界遺産になる自然、長寿・子宝、独自の文化、避粉地などのセールスポイントを活かして、奄美群島全体で「あまみブランド」をしっかりと構築することが大切である。

一方で、奄美の島々には、それぞれ個性がある。そこにある素材を組み合わせ、島や地域ごとの強みを活かし、「長寿・子宝・癒しの島」ならではのストーリーでつなげるプログラムを作ることで、**他の地域**との差異化を図ることが重要である。

なお、「あまみシマ博覧会」は、奄美群島にある素材を活かして、「長寿・子宝プロジェクト」の戦略を実現し、成長を続けている取組である。

### **4 情報発信の拡大**

奄美群島の価値は、実際に体感して分かることが多い。体験の感想はもとより、例えばサトウキビから黒糖ができる一年間の作業の工程や、地域の日頃の生活文化、暮らしぶりなどを、季節感を持たせて情報発信することが有効である。

また、島外の方が奄美群島に何を求めているかを知り、島外の方に明確なメッセージを発信する事がたいへん有効である。

さらに、全国にアピールするため、島外に住む「奄美の応援団」による口コミやブログ、ツイッターなどのソーシャルネットワークシステムを活用した情報発信を、さらに拡大する仕組みづくりも大切である。

- 奄美群島は「長寿・子宝・癒し」の素晴らしい島です。これからも「長寿・子宝」の島であり続けるよう、住民自らが日々の生活習慣を見つめ直し、改善していきましょう！！
- 地域の住民が協働してまちづくりを進め、地域力を高めるとともに、結の文化と豊かな自然溢れる奄美群島の魅力を、奄美群島が一体となって、広く情報発信していきましょう！
- 世界自然遺産とともに「21世紀少子高齢社会対応モデル」をめざしましょう！